

事業名	代表者所属	広島工業大学 工学部
07KJ-08	代表者	教授 池庄司 英臣
広島工業大学第3回「ワクワクものづくり大作戦」	開催地	広島市
	助成金額	10万円
活動概要	<p>日時: 2007年8月11日(土)</p> <p>場所: 広島工業大学内</p> <p>対象: 小学生</p> <p>参加者: 499名 内訳(小学生;226名)(保護者;273名)</p> <p>内容: 電気とあそぼう!ほか11講座</p> <p>参加費: 各講座300円</p> <p>後援: 広島県教育委員会、広島市教育委員会、TSS わんぱく大作戦</p> <p>協賛: 財団法人マツダ財団</p>	



からだのフシギにふれよう!



みんなのまちをつくろう!



橋づくりコンテストに参加しよう!



立体メガネで地球をみてみよう!

事業の目的・ねらい

今回貴財団より助成いただいた「第3回ワクワクものづくり大作戦」は、小学生を対象に、夏休みの宿題である「自由研究」「工作」の応援企画として実施しました。内容は、身近で親しみやすいテーマを題材とした、参加する小学生がものづくりの楽しさを実感・体感できる体験型講座で、参加者にとってのものづくりに興味を持つきっかけとなることを目的としました。同時に、当該行事の企画から実施までを本学の学生に担当させることにより、小学生には親しみやすく、そして学生にとっては自主性・創造性を育む機会となることもねらいとし

ました。なお、今年度は、低学年児にも取り組みやすい内容の講座を増やし、兄弟姉妹で参加しやすい体制づくりを目指しました。

事業の概要

■開催日時:平成 19 年 8 月 11 日(土)9:45~15:00

09 :45 開会式(学長補佐挨拶、注意事項説明)

10 :30 講座開始

昼食(1 時間程度)

15 :00 講座終了

■場所:広島工業大学内(附属図書館ほか)

■対象:小学生とその保護者

■参加費:各講座 300 円

■定員:各講座 20 名

■申込者数:239 名(小学生)

■参加者数:499 名(小学生 226 名、保護者 273 名)

■開講講座:計 12 講座 *()内は参加小学生数

(全学年対象)

・電気とあそぼう(20 名)

・世界にひとつのランプをつくろう(27 名)

・空気とあそぼう(18 名)

(3 年生以上対象)

・ペットボトルで風車をつくろう(17 名)

・虹色にかがやく万華鏡をつくろう(18 名)

・からだのフシギにふれよう(20 名)

・歯車でうごく時間割装置をつくろう(20 名)

・ミニハウスをつくろう(20 名)

・みんなのまちをつくろう(17 名)

(4 年生以上対象)

・橋づくりコンテストに参加しよう(18 名)

(5 年生以上対象)

・立体めがねで地球をみてみよう(18 名)

・絵に描いた車を走らせよう(13 名)

■主催:広島工業大学

■後援:広島県教育委員会、広島市教育委員会、TSS わんぱく大作戦

■協賛:財団法人マツダ財団

結果及び効果

今回貴団体に助成いただいた「第 3 回ワクワクものづくり大作戦」は、小学生 226 名、保護者を含めると、約 500 名の参加者を得て、おかげさまで事故なく無事に終了することができました。参加者のいきいきした表情や課題に熱心に取り組む姿がとても印象的でしたし、参加小学生とその保護者を対象に実施したアンケートを見ても、「ものづくりを実感・体感することを通して、ものづくりに興味を持つきっかけとしてもらう」という本事業の目的は達成できたものと考えています。また、家に持ち帰った作品に更に手を加え、担当学生や教員の想像を超える力作を完成させて連絡を下さった参加者もあり、「ものづくりへの興味が持続する」講座を実施できたことを主催者として嬉しく感じています。加えて、本事業は講座の実施内容の検討から材料の購入、試作などの準備、そして当日の講座運びまでを本学学生が中心となってすすめることも特徴のひとつです。学生たちは、小学生の自主性を尊重しつつもケガのないようにとの思いから、何度も何度も試作を重ねて当日を迎えました。さらには作業が遅れがちな低学年児や、一人で参加する小学生が気後れすることなく楽しめるように、参加者の状況を勘案してグループ分けをするなど、実に温かく、細かい配慮をしていました。このような準備期間を経て当日を迎えたこともあってか、当日は参加者に積極的に声かけをしたり、参加者が困っているときはさりげなくフォローしつつも、参加者とともに楽しみながら講座を運営していました。この、学生の心遣いや熱心な姿勢は、参加小学生のみならず保護者からも感謝とお誉めの言葉をいただいています。こうして、学生が主となって講座運営を行うことにより、小学生にとっては「お兄ちゃんお姉ちゃんに教えてもらう」親しみやすさで楽しんでもらえ、また学生にとっても、企画を実行に移すことに伴う困難や、「子供たちにわかりやすく教える」という日ごろとは異なる視点を経験する良い機会となりました。また、近年、地域であり見られなくなった世代間交流の場となったのではとも思っています。本学ではこれからも、地域の方とふれあい、学びあえる催しを企画、実施していきたいと考えています。最後になりましたが、本事業に対し貴財団のご理解、助成をいただきましたことを心よりお礼申し上げます。